

あをみわらし

弾き語りシンガー

みちのく秋田のわらしっこ…
ぴあのと唄っこ聴いてたんせ。

その謳い文句のとおり、その舞台姿はまるで日本の昔話から飛び出したかのよう。人形のように端正な横顔から唄いだされる彩り豊かな世界は一体どのようにして創られているのだろうか。独特な楽曲の生まれ方や、彼女の世界の題材となっている秋田への想いなどを聞いてきた。

photo & interview

「メロディーは運転や散歩、寝る前などに浮かんだりします。あと、たまに人と話しているときに。お母さんに怒られている時です。浮かんでしまうから、もう厄介で。そうやって浮かんだメロディーをピアノで弾いていくんですよ。メロディーが浮かんだ時点で大体のコードのイメージも同時にもっていることが多いかも。また、パッチワーク感覚でつなぎ合わせることも多いですね。だからメロディーの素材は生活の中で沢山つくってあります。」

「（美家の）秋田に帰ると自然（雨とか風とか）と一体になれる感じがするんです。そういった環境で、曲が浮かぶ。私と波長がすごくあっているのかな。東京にも美しいものは沢山あるけれど、やはり秋田に帰ると何万倍も違う気がするんです。そして、自然と曲が出てくる。さっきのお話とも重なるんですが、私にとっての曲づくりとは、自然の音や風景をそのまま音楽にしていくなことなんです。わたしにとって秋田とは、その充電が出来る場所ですね。」

私にとっての曲づくりとは
自然の音や風景を
そのまま音楽にしていくなことなんです。



「これから夏、秋、冬と3本ほどライブをしようと考えています。とくに秋、十月には初のレコ発イベントを計画中です。とにかくライブ中に「夢を見ているんじゃないか」というステージを目指していきます。現（つつ）をわすれるような。不思議な気分になったりとか。いつも、あえて曲説明はしていないんです。是非お客様それぞれの感覚で、わたしの見た風景を感じていただけたら嬉しいです。」

あをみわらし
プロフィール

4歳からクラシックピアノを始める。
高校時代、オリジナル曲を
作曲・レコーディングしたことをきっかけに
本格的にポップスの世界へ移行。
4年前にアップバウンティユー、
以降数々のライブを重ねる。
現在は新たな音源の制作中で十月には
初のレコ発ライブも主催予定。

公式HP

